

正しい障がい者観とその啓発を

この世に生を受け、誰もがたった一度だけの人生。障がいのある仲間たちの、その大事な人生をいかに幸せに生きていただけるのか、それを支援するのが私たち職員の“しごと”です。そこには、障がい者福祉に対する正しい理念と、熱き情熱を持ち合わせていることは福祉職員として不可欠な条件でしょう。仁万の里で働く職員同士、同じ目的を持った同胞として、この仕事に対する理念と情熱をぜひ共有していきたいと強く思います。

また、障がい者福祉は単に介護だけのしごとではありません。世の中の障がいに対する意識改革や、誰もが大事な存在として認め合い、共に暮らせる本当の意味の豊かな社会づくりをしていくことも職員の大事なしごとの一環です。そのためには職員ひとり一人が、正しい障がい者観や社会観を身に着け、それを周りにふりかけていくことが必要でしょう。そして、それらの取り組みの過程においては、人が生きる意味や人が働く意味、社会の在り様などを示唆してくれる大事な要素

がたくさん秘められています。

その「大事な要素に気付く人」と「気付かない人」は、イコールこの「仕事に魅力を感じられる人、感じられない人」に結びつくものだと思います。

近頃の忘れられない事件として、相模原の施設での事件があります。障がいのある人の存在を否定する考え方、しかも元職員であったこともショックでした。彼だけの価値観でなく、それに賛同するツイッターもけっこうあったように聞いてます。障がい者を排除したり、経済効率優先の考え方や優生思想的価値観が世の中にはびこってきつつあるのか。また、本来そのような価値観が浄化されるはずの障がい者福祉施設で浄化作用が機能しなかったこと。これらのことを考えた時、今こそ、私たち障がい者福祉に携わる職員が、正しい障がい者観を共有した職場集団をつくること、そしてそれを外に向かって強く発信していく力が必要に感じます。

不審者対策としてサツマタ訓練だけで終わってはいけません。それよりも、職員ひとり一人が、正しい障がい者観を身につけ、そ

してそれを外に向かって啓発していくことの方がはるかに大事であり、啓発していけるだけの力強い仁万の里の職員集団であってほしいと思います。

また、地域に開かれた施設づくりを目指している仁万の里においては、このような事件を受けて施設をクローズしてはいけません。より積極的なオープン化に心がけ、より多くの人に関わっていただく中で、仁万の里の理念と正しい障がい者観（正しい人間観）が広がっていくことを目指したいと思います。

【障害者権利条約】

第一七条「すべての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する」

仁万の里の“しごと”って素敵だと思いませんか？だって、「人としての幸せをさがす」しごとだし、「誰もが支え合ってくらせる豊かな社会をつくる」しごとが毎日出来るじゃないですか！しかもお金までいただいで……。ありがたいことです。